

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』

～ 小瀧 喜七郎 ～

1872年（明治5年）～1951年（昭和26年）

愛知県岡崎市出身。本多家の旧藩士。行政家。

岡崎市第4代市長。岡崎市名誉市民。

毎日一度は岡崎公園を巡視し、一木一草の手入れに至るまで注意を払わせ今日の岡崎公園のもとを築き、公園助役・公園市長の異名を取りました。

1958年（昭和33年）には、小瀧喜七郎の胸像「小瀧喜七郎翁像」が岡崎市により岡崎公園内に建立されました。

市助役当時から手掛けた懸案の上下水道事業や産業構造の近代化を目指し、美合町に日清レーヨン、日名町に日本レーヨンなど近代工場の誘致を推し進めました。

その他、矢作川改修工事、鉄道敷設、道路改修、都市計画事業、小学校校舎の増改築、郵便局舎新築、耕地整理事業、時刻厳守の励行、少年更生保護事業などに功績があります。

1928年（昭和3年）発行の「遺風餘烈」に、手島鋤司と親交のあった小瀧喜七郎が追想文を寄せています。

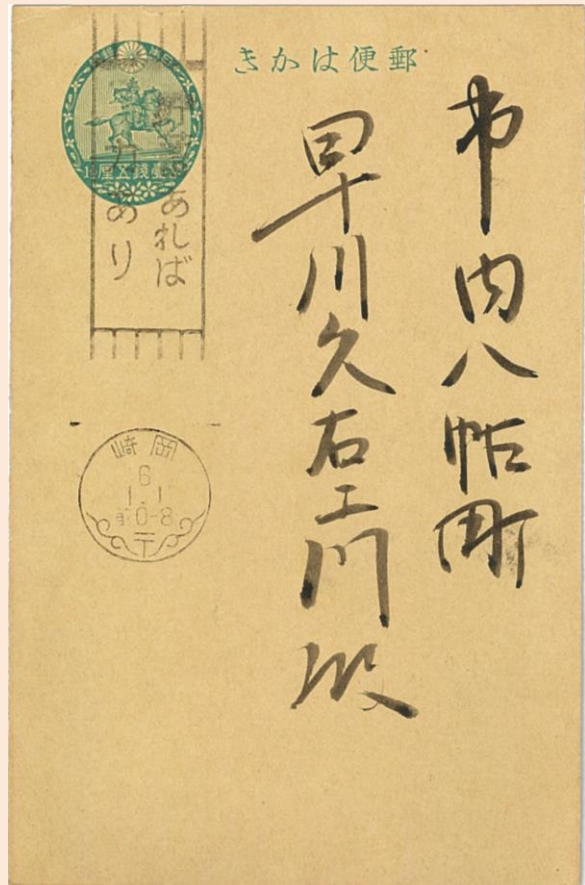
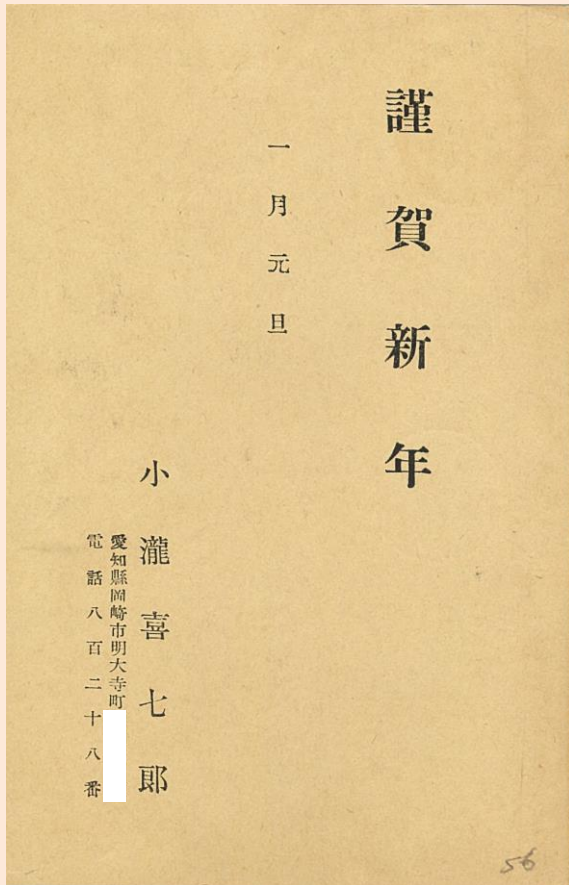
※手島鋤司

1867年（慶応3年）～1922年（大正11年）

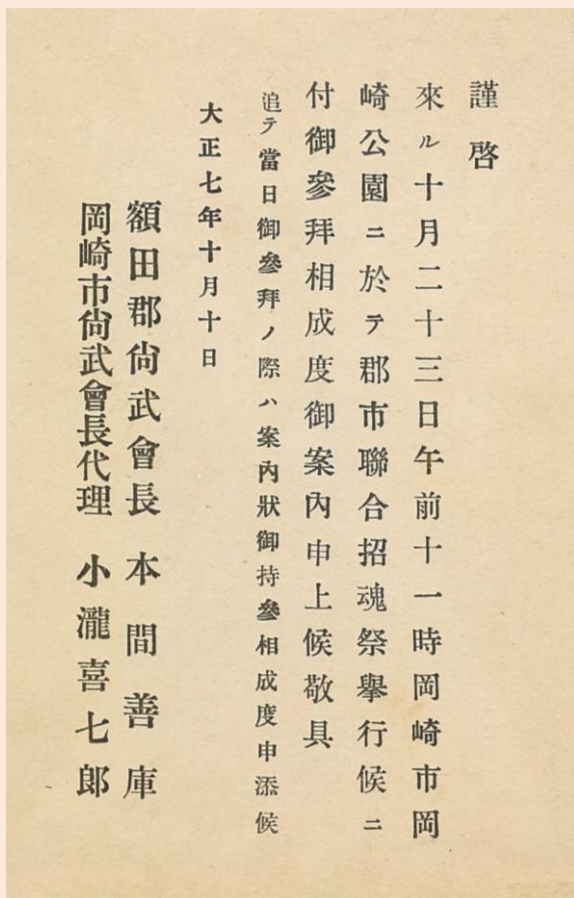
愛知県岡崎市出身。衆議院議員。岡崎市名誉市民。

カクキューの元支配人。

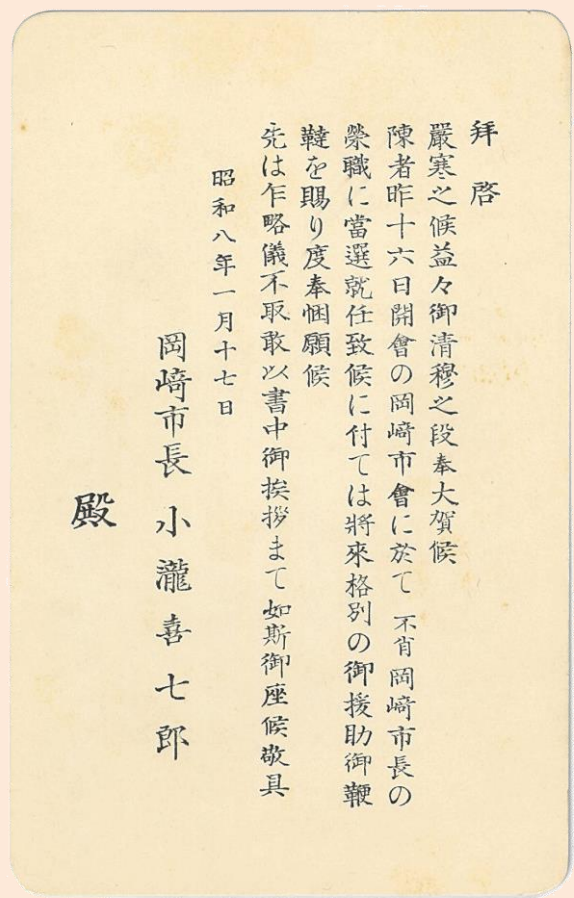
当社史料室には大正・昭和時代に小瀧喜七郎から頂いた年賀状やハガキ類が残っています。



小瀧喜七郎からの年賀状(昭和6年元旦)

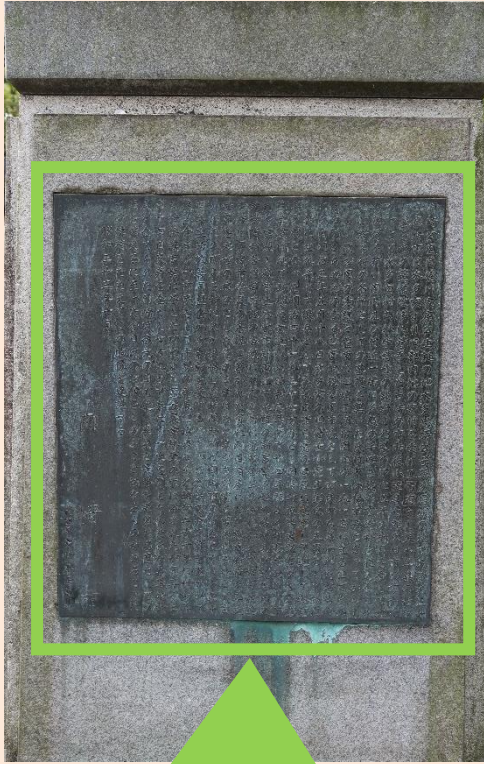


招魂祭の招待状(大正7年10月10日)



市長就任の挨拶状(昭和8年1月17日)

胸像裏面の説明板



「小瀧喜七郎翁像」(昭和33年7月建立)

岡崎公園は徳川家康公生誕の地本多忠勝公子孫の居城の地である大正七年岡崎市は本多家より旧郭内地の寄付を受けて市有とし翌八年県の指令に基きその整備改修に着手した当時の市助役小滝喜七郎氏は市の方針にのっとり本多田村両林学博士の設計と指導の下に五年の歳月を費して拡張改修を行い園内及び付近一帯に多数の早咲き染井吉野桜を植え今日東海に誇る桜の名所としての基礎を築いた氏はその後市長となつてからもいよいよ公園の愛護と整備に心魂を傾け国内の一木一石に至るまで氏の息のかからぬものなく公園助役公園市長として市民から慕われたおもうに氏は明治五年五月十八日本多家の旧藩士小滝正彭氏の五男として市内八帖に生れ長じて徴兵として入隊日清日露の両役に従軍し累進して輜重兵少尉となつた明治四十一年三十七才のとき岡崎町役場書記となり大正三年選ばれて助役に榮進以来昭和三年まで十四年間よく町長を助けて市制を実現し教育土木都市計画上下水道の諸事業を始め名鉄及び大工場の誘致隣村合併等市政の各般にわたり常に愛市奉公の念に燃えて努力精進を続け岡崎市発展の基礎を築かれた資性剛直清廉にして熟慮断行と率先垂範を処世の戒めとしたその日常はたゆみなき研究と努力と奉仕とで貫かれたのである特に氏が提唱した時間励行は岡崎市の特色となり大正十四年生活改善同盟会から表彰を受けるに至つたなお市長の職を退かれて後も余生を一市民として市勢の発展に協力せられ昭和二十六年には多年司法保護事業に尽した功により藍綬褒章授けられたが同年十二月十四日天寿を全うし七十九才で奉仕の一生を閉じられた氏が在職中幾度か企てられた岡崎城復元の日も近く歴史と景勝を兼ねた名園としての実を備えるに至つた今日氏の功績をしるぶこと切なるものがあるここにその偉徳をたたえてこの胸像を建設する

昭和三十三年七月

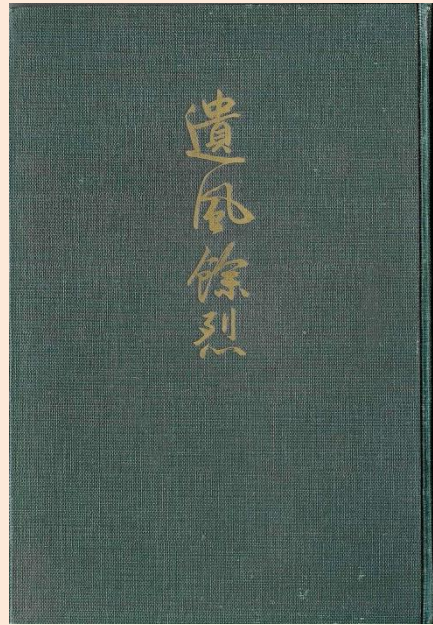
岡
崎
市

彫塑家 高村泰正 謹作

追 想 録

岡崎市助役 小瀧喜七郎

故手島鋏司君は余が年少時代より相識の間柄であつたが、君を益友として親しむやうになつたのは早川家に入店せられた後であつた。余が生家は廢藩の後、八帖の琉球島に水車業を營んで居た關係上、早川家から精米の依頼などで同家へは屢々出入するやうになつて居たのである。當時何でも余が十五六歳の頃、重量十六貫から十八貫ぐらゐるまでの俵米を自由に取扱ふのに反し、君は五歳の年長者であつたに拘らず、余の如く自由に取扱ふことが出来なかつたので、『力量の點に於ては慥かに君に一籌を輸す』と云つて笑つて居られたが、負けず嫌ひの君は之を遺憾とし益々體質を鍛鍊することを怠らなかつたとのことである。早川家に於ける君が日常は、實に



小瀧喜七郎が手島鋏司に寄せた追想文(昭和3年9月23日発行の「遺風餘烈」より)